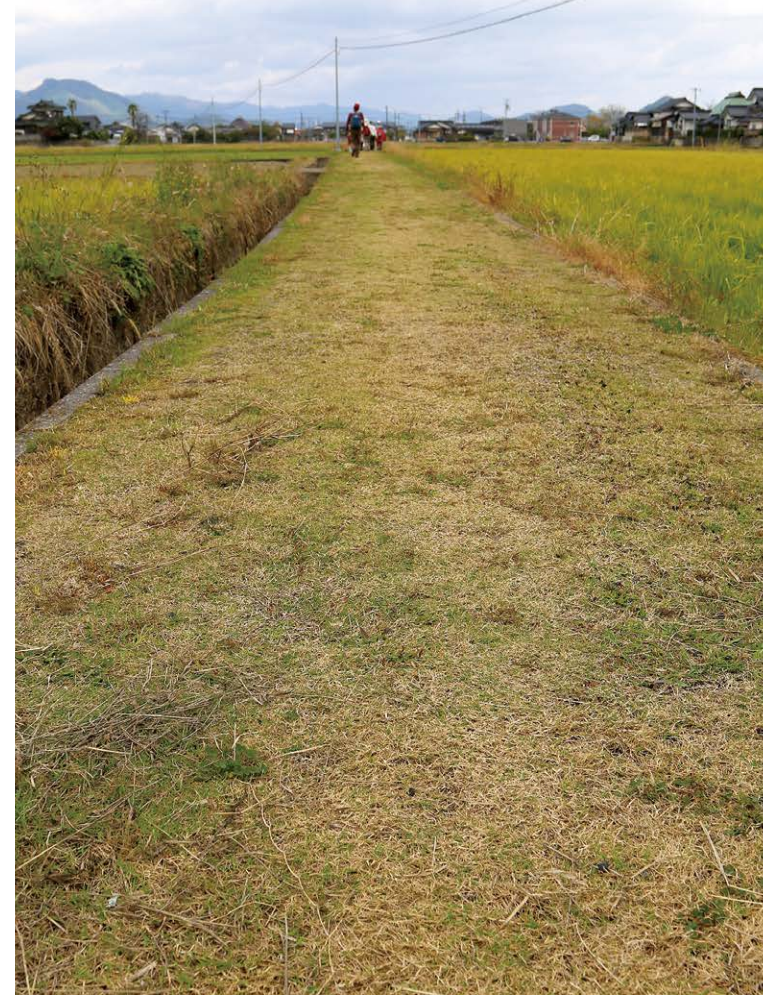




石州街道を歩く

小郡～山口～阿東
ルートマップ



石州街道と史跡めぐり

小郡津市から阿東・野坂峠(国境・石見国)へと至る道、全長12里28丁(51.5km)の石州街道。
大歳の歩みでは1360年ころに石州街道が通じたとされ、サビエルや雪舟、多くの武士たちが行き来し、百姓や町人などの生活道でもありました。幕末の山口移鎮後は赤間関～吉田～小郡～山口を結ぶ重要な政治の道となり、周布政之助・井上馨なども行き交いました。
また、田園風景が続く観光農園で有名な阿東は赤瓦の街並みが続き、豊かな自然と共に江戸時代の史跡も多く残ります。
今も随所に街道の風情が残る石州街道を私たちと一緒に歩いてみませんか！



ROUTE MAP ルートマップ 小郡津市～山口安部橋 区間

01 三原屋本陣跡

文久3年(1863)8月19日、下関での攘夷決行を詰問するため三原屋に入っていた中根市之丞一行を奇兵隊士らが襲撃した。

02 光明寺「六十六部供養塔」

長井家の大宝篋印塔と、六十六部供養塔がある。供養塔は宝永4年(1707)この地で病死した下総の国土屋利兵衛を祀ったもの。

03 津市道標

山陽道と石州道の分岐点に建つ道標。標柱には「右 京江戸」「左 秋山口石見」とあり、裏には「牛馬繁事無用」とある。

04 勤場跡・御茶屋跡

勤場は藩の行政の場(小郡宰判)、御茶屋は藩主の宿泊休憩及び藩の公的な宿泊施設。

05 小郡高女跡

明治41年和洋裁女学校を母体に大正時代に小郡町を除く南部11ヶ村の組合立実科女学校となり、昭和2年に高等女学校となった。

06 山口獣医専跡

昭和19年(1944)に山口県によって設立された専門学校。創立時の名称は「山口県立山口高等獣医学校」。

07 淡島さま

元は中領八幡宮の境内にあったが、昭和57年にこの地に移された。淡島社は和歌山の加太神社を本社として全国にある。

08 中領八幡宮・小郡関門説明板

元久2年(1205)宇佐八幡宮の神霊を奉じて創祀し、興国5年(1344)に社殿を建立した。小郡関門は山口防衛のため砲台場とともに設けられた。

09 四十八瀬川

多くの瀬を涉ったため名付けられた。6月上旬にはゲンジボタルが飛び交う。

10 南向き地藏

四十八瀬川の土手にあった北向き地藏が河川工事のため50m上流に移設され、南向きに姿えられた。

11 中郷八幡宮

大内貞弘が宇佐八幡宮より勧請し創建したと伝えられている。八幡宮境内に船つなぎの松があった。往古は海が入り込んでいた。

12 海善寺

浄土宗西禅林寺派、慶長8年(1603)建立。玉木彦助の墓がある。

13 林勇蔵翁座像

幕末維新期に活躍し郷土の発展に尽くした林勇蔵の座像は、昭和5年建立、戦争で供出、昭和46年没後100年に現在地に建立。

14 林家

林家は代々大庄屋、庄屋を務め地域に貢献した。

15 馬踏の石畳

明治2年(1870)に朝田川の150mの堤防上に石畳を築き、越流堤を補強した。

16 山伏さま

追っ手に討たれた侍と自害したその妻を祀った。

17 榎野川・吉敷川出合

明治の河川改修によって吉敷川に導流堤が設けられ、合流点が変わった。

18 和田公会堂

和田地区の公会堂は石州道の目標。この地区では山口大神宮の小社を巡る日参様が行われている。

19 大歳橋

吉敷川の改修で移設を繰り返し、昭和10年に黒川橋から大歳橋になった。

20 庚申塔

庚申は人の行いを戒める道教の思想、ここでは地域の護り。

21 山下玄良屋敷跡

山下玄良(1755～1815)は、医家を引き継ぎ地域医療に貢献。京都・長崎で学び奇病や難病も治療し名声を博した。

22 恵比寿社

黒川市では市も立ち商売繁盛、地域の安全などを願って祀った。明治末までは大歳村役場の門前にあった。

23 朝田神社(旧周防五ノ宮)

明治42年(1909)に郷内6社を統合し旧住吉神社の地に建て替えて遷宮した。イザナギ、イザナミの子神のミズハノメガミが主祭神。

24 大歳さま

スサノノミコトと、カミオオイチメが結ばれて大年の神(大歳さま)が生まれ、穀物の守護神とされている。(古事記より)

25 養元寺

浄土真宗、元は数正寺という。後継者が途絶えたため津山の養元寺の家系が継ぐことになり、寺の名を養源寺に改めた。

26 調べの森

大内輝弘の侵攻前後、毛利方は問所を設け厳しく取り調べたため調べの森と言われた。

27 吉富簡一郎

吉富簡一は山口宰判下の大庄屋で幕末維新に活躍、明治になっても地租改正や県議会議長としての手腕をふるい矢原将軍と言われた。

28 周布政之助の碑

政之助は藩主毛利敬親に登用され、安政の諸改革を行い、財政、軍事、教育など長州の基盤を確立した。

29 井上公園

井上馨の生まれ育った屋敷跡に造られた公園。井上馨の銅像や榎田山頭火の句碑などがあり、人々の交流や憩いの場となっている。

30 龍泉寺

文久3年(1863)、京都御所で起きた政変により、京都を追われた7人の公家は長州藩へと身を投じた。その内の2人が起居した場所。

31 袖解橋

大内氏が栄えていた頃、山口に登城した侍連は、この橋までくると旅装を解き威儀を正して山口に入っていたことからこの名がついた。

32 井上馨遭難碑

元治元年(1864)9月25日、井上馨が俗論派藩士に襲撃され、瀕死の重傷を負った場所。所部太郎の手術により一命を取り留めた。

33 円龍寺

浄土真宗。井上馨が切りつけられた際、俗論派の刺客が集合し、待ち伏せした場所。水準点がある。

34 長壽寺

浄土宗。大内義興が病氣平癒の祈願をし、平癒したことのお礼の文書に長寿と記されていたことから、長壽寺となった。

35 安部橋・安部本陣跡

一の坂川に架かる安部橋は岸辺に居を構える安部家が架けた。安部家は山ローの豪商で山口町の大年寄を務めた。

36 枕流亭跡

「安部家」の離れ屋敷で道場門前の一の坂川の河畔に建っていたことから、枕の下に水เสียงを聞く風流な発想が亭名となった。薩長同盟の場。

37 本図寺

西日本最初の日蓮法華宗の寺。文和2年(1353)大内弘世により創建された。

✳ 石州街道を歩く

石州街道ガイド紹介

「石州街道」のガイド予約ができます。下記の電話番号またはメールにてお問い合わせください。

※現在「小郡津市～山口安部橋」区間の中からのコースとなっています。

やまぐち秋往還語り部の会事務局

tel.fax.083-920-3323

営業時間／平日 13:00～17:00

e-mail : ya_kataribe@yahoo.co.jp

周辺交通のご案内

JRおでかけネット

<https://www.jr-odekake.net/>

山口市総合時刻表 - 山口市

<https://www.city.yamaguchi.lg.jp/soshiki/73/47659.html>

周辺観光についてのお問い合わせ先

山口市観光交流課

〒753-8650 山口県山口市亀山町2-1

TEL. 083-934-2810

湯田温泉観光案内所

〒753-0056 山口市湯田温泉2-1-23

TEL. 083-901-0150

一般財団法人 山口観光コンベンション協会 徳地支部

〒747-0344 山口市徳地八坂652

TEL. 080-2916-8878

NPO法人あとう（あとう観光協会）

〒759-1512 山口市阿東徳佐中3628 阿東ふるさと交流促進センター内

TEL. 083-956-2526



お問い合わせ

一般財団法人 山口観光コンベンション協会

〒753-0042 山口県山口市惣大夫町2-1 JR山口駅2階

tel.083-933-0088

営業時間／9:00～17:30(土曜・日曜・祝日及び年末年始除く)

e-mail : info@yamaguchi-city.jp

<http://yamaguchi-city.jp/>ROUTE MAP
ルートマップ 山口安部橋～野坂峠 区間

38 札の辻

ここは石州街道と秋往還が交わる場所で、「札の辻」とよばれ江戸時代の高札場(こうさつば)であった。



39 万福寺(黒地藏堂)

万福寺の中には、木造地藏菩薩(黒地藏菩薩)がある。山口祇園祭に奉納される鷲の舞は、まずこの境内で奉納される。



40 石観音堂

境内には、猿田彦神や日限地藏、延命地藏が祀ってある。この辺りを石観音町という。



41 サビエル記念公園

サビエルが大内義隆から許可を得て、キリスト教の布教活動をした大迫寺の跡地とされている。



42 仁壁神社

仁壁神社は延喜式神名帳に載る古社で、周防三ノ宮とも言われ崇敬を集める。宮野の地名の起こりともなった。



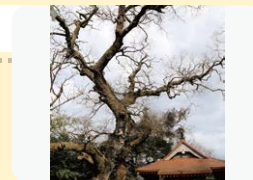
43 義少年合同の碑

地区同士の稲田の水争いを止める為、2人の少年が秋藩へ直訴した。争いは解決したが当時の藩主への直訴は罪で2人は死罪となる。



44 龍王社のムクの巨木

境内の周囲にムクの巨木群があり、最大のは根周り8m、高さ25mとされている。山口市の天然記念物に指定されている。



45 古戦場跡と古墓

岩杖地区公会堂の南側、石州街道傍に五輪塔や石灯籠、石地蔵などが並んでいる。



46 仏石・早乙女墓

仏石は、河内社の前の街道側に立ち、刻銘はないが、地元では「いしぼとけ」と読んでいる。早乙女墓は、田植えをしていた早乙女が、殿様への無礼で斬られたと言い伝えがある。



47 杖坂の石畳跡

国境の大峠に向かう杖坂地区は、かつて石畳が敷かれており、一部現存している。



48 馬頭観音

杖坂の地名のとおり、この辺りはかなり急な坂になっている。通行上危険な場所であったと考えられ、牛馬安全を祈願し祀られたと思われる。



49 国境の碑

大峠の山口市と旧阿東町の境界に立つ、花崗岩の石柱。「南 周防国吉敷郡」「北 長門国阿武郡」と刻まれている。



50 神明社、河内社

神明社の祭神は天照大神で、河内社の祭神は、同象女神(みづはのめのかみ)とされている。



51 文殊堂

唐獅子の上に文殊像が座している。近年、本尊、お堂の修堂が行われた。



52 一里塚跡・乱橋跡

乱橋は騒乱があると直ちに落とせる橋だった為、この橋名となる。風土注進案にはこの辺りに一里塚が記されているが形跡はない。



55 堅田大和守の墓

安土桃山時代から江戸時代にかけての武将、堅田元慶(かただもとよし)の墓。行政手腕に優れていたため、毛利輝元、小早川隆景に信任を受けた。



56 阿弥陀堂跡・入定墓

先年までは庵主や住人がいたが、迦藍は解かれた。敷地内には入定墓がある。



57 台ヶ原城跡

山麓の松林の中に台ヶ原城跡と伝えられている地があるが四方に土塁をめぐらし、南側には深い堀割がある。



58 一里塚跡(城平)

城平の谷川付近に一里塚が(「地下上申絵図」)記されており、その地点と思われるあたりに岩石の集積がある。



59 長門峡

阿武川と篠目川の合流点。大正12年、内務省から名勝として指定を受け、昭和36年には県立自然公園として山口県の指定を受けた。



60 三浦之介の生墓

三浦之介元久が竜宮洲の底にある龍宮に行き、宮殿で歓待を受け、1日と思ったが100日が経過しており、家族は墓を作ったが、帰ってきたので生墓となった。



61 関門跡

堂ヶ谷の橋添いから上部にかけてある龍淵関門。阿東にある関門は、徳佐の野坂と篠生の御堂原の2か所である。



62 薬師堂跡

薬師如来を本尊とした、薬師堂跡とされている。



63 千人塚

渡川城跡の山麓にある塚で、弘治2年(1556)の吉見・陶合戦の戦死者を葬った墓と伝えられる。



64 渡川城跡

中世大内氏の三大古城の1つ。要害山あるいは城山と呼ばれる山に、石州街道の要衝として築城されたものである。



65 三田地蔵

年号等刻銘はないが、旅人の安全を願って建立されたと思われる。



66 延命地藏・繰舟永代録

文化3年(1806)大谷勘左衛門と中村九郎衛門が渡川に橋を造り、安全を祈り、地藏を建立した。その横に「繰舟永代録」がある。



67 繰舟跡

嘉永6年(1853)持坂の庄屋伊藤市左衛門が繰舟による渡川の渡しを考え、各方面から寄付を募り、完成させた。



68 妙信寺の墓

真宗妙信寺内には、給領主福原越後の側室妙信院の墓や福原主殿奉納の梵鐘がある。



69 山代街道と石州街道の出会い

石州街道と山代街道の合流地点。ここには諏訪神社がある。



70 早乙女塚

山代街道と石州街道の分岐点から少し離れたところに野面石があり、早乙女塚と伝えられている。



71 地福八幡宮

永正7年(1510)豊前宇佐八幡宮より八幡原に勧請し、ついで馬場に移したが元禄15年(1702)に全焼して現在地へ奉遷した。



72 千人亡者供養塔・賽の神と地藏

千人亡者供養塔は、阿武川がくわっている為に水死者の死体が河岸に打ち上げられることが多かった為、供養のために建立したと伝えられている。旧道沿いには、賽の神と地藏が祀ってある。



73 脇本陣跡(旧椿酒屋)

旧町役場の西隣にある。本家を凌ぐ大屋敷である本陣椿家の分家で、一部を残し解体された。



74 本陣椿家門

代々大庄屋を務めた家で、椿家の門だけが今も残る。



75 目代跡(金子家)

宝永年間(1704～08)から4代にわたって、金子家が70年以上目代を務めており、街道松と伝えられる大木が今も残る。



76 徳佐八幡宮

寿永元年(1182)創立。参道入口には薬師堂があり、本尊には薬師如来像が座す。桜の並木があり、満開時には花見客が訪れる。



77 口屋跡(御番所跡)

徳佐下山の藤井孫兵衛が御口屋番を務めた。貞享3年(1686)より御口屋番から御番所と改められ、藩役人が務めた。



78 国境の碑跡

現在の県境が国境となる。野坂境目付近には一里塚や御駕籠建場などがあったとされている。

